11	「神主さんと神社を学ぼう!」報告
10	庁務日誌抄
9	神社庁新任職員挨拶
9	埼玉県神道青年会会長就任挨拶
8	入間西支部物故神職慰霊祭報告
8	学芸員退任にあたって
7	埼玉県神社庁神殿鎮座記念祭
7	埼玉県神社庁祈年祭
6	青少年教化育成事業報告
4	令和四年度教養研修会報告
2	食事から見る江戸期の伊勢参り
	目次



第244号 発 行 埼玉県神社庁 さいたま市大宮区高鼻町1-447-1 電話 048 (643) 3542

編集 庁 報 室 印刷 ㈱アサヒコミュニケーションズ



青少年教化育成事業 2月27日 於 小川町・八和田小学校

兀

5

が、

食事から見る江戸期の伊勢参り

丸 出 正 之

くなってくると、 旅に出ました。 街道を閉ざしていた雪が溶け、日照時間 人々は連れだって伊勢参りの が長

を詳細に書き 三日市大夫次郎邸に宿泊した際、出された料理 なされた、という話は有名で、各地の「道中記. 勢参りに来た川島巳之助は、講中十三人で御師 で残しているものもあります。 にも膳の上の食材を記録し、中にはスケッチま 一八四一)正月、武蔵国埼玉郡下野村から伊 江戸時代、彼らが御師邸で豪華な食事でもて 天保十二年



丸岡邸玄関

がうかがわれます。 での非日常的な食事にどれほど驚き、喜んだか

とまでも詳しく書かれています。 事のメニューにとどまらず、どこへ何を持って も含めて記録しました。「献立」といっても食 師が御祓大麻を配布し、初穂料をもらう契約を プ (講)のもので、 期 行ってお迎えしたか、食事には何を出し、 した相手方)の旅程の一部始終を、食事の内容 います。「献立」は、 、案内し、どんな土産を渡したか、といったこ から明治初期まで四十点の 伊勢山田外宮の御師丸岡宗大夫邸には、 宗大夫は、大切な檀家(御 太々神楽を奉納したグルー 献立 」が残って خے ک

というところです。一方、三月二十四日に新茶 出立した茅商人勝村茂兵衛一行十七人は、 勢さんまではあと四日の道のり、 の旅の様子を見てみましょう。 一八〇九)三月 「ツ目茅場町 から伊勢桑名宿堺屋に到着しました。 で川止めに遭いながらも、二十日暮に尾張佐 文化六年(一八〇九)三月六日、 それでは、「献立」のうち「文化六巳己年 (多気郡明和町)で一行を迎える約束になっ 勝村茂兵衛殿御講中 太々御神楽献立 やっと一 江戸 」から当時 江戸本所 深川を 安心 お 伊 大井

> ました。 を確認するため、 産に持たせて伊勢街道を北に ている宗大夫は、 手代の甚蔵に鮑の糟漬を手土 同二十日朝、 「遠見」に走らせ 彼らの進み具合

慈姑、干瓢、 つことになりました。翌二十五日、泰助は堤中遅れた人があり、一行は秋田屋に逗留して待 二十四日は、約束の「迎え」の日でしたが、道 報告しました。さっそく手代の泰助が鯛一枚、 取りを決めて山田に戻りました。二十三日早 そして吸物と酒となっています。 重に酒肴を詰めて正式な「迎え」に参りました。 衛一行が、本日新茶屋秋田屋に到着することを 行くことがありました。甚蔵は、翌二十一日に 勢市宮川町)で檀家を迎えますが、 つことになりました。翌二十五日、 鈴鹿上野宿で講元の勝村茂兵衛に会い、先の段 渡って新茶屋、 してくれるような上客の場合は、 通常、 、「遠見」に出ていた甚蔵が帰宅し、勝村茂兵 酒二升を持って挨拶に向かいました。翌 御師の手代は、 椎茸、 松阪宿、鈴鹿上野宿まで迎えに 山の芋、昆布、 宮川東岸の中川原 宮川を西に 神楽を奉納 切飯、 物

まとめて一括でいただいていましたので、人々 昼食弁当が用意されています。このように、 名所でもあります。ここでも御師が手配した 名な浜で、天気がよければ富士山が望める観光 て旅を楽しむことができたのです。 は、その旅ごとの支払いの心配をせずに安心し 神楽奉納、名所案内、土産などにかかる費用は 「迎え」から「送り」までの宿泊、 二見浦に案内されます。二見浦は、夫婦岩で有 一行は、山田のまちに入る前に禊をするため 飲食、籠

出ます。 ずは落着といって三方に載せた熨斗鮑、 やっと宿に到着して一息といったところで 屋に入ると、お茶と茶菓子が備えてあります。 的な意味合いがあります。 夕刻になり一行が宗大夫邸に到着すると、 無事に御師邸に到着したという儀式 現代でも旅館の部 菓子が

煮物(花烏賊、薇)一の膳膾(魚、 セットされており、こちらから箸をつけます。 二の膳 一切) さて、お待ちかねの夕食です。 (場合によっては三の膳も)は、 ちょく(からし和え、 刺身 (鯛、木の芽酢) 大根、 (松露、青ミ) 木耳、干し麩、けん) 汁 あらかじめ 一の膳、 (すまし、 飯

(ふらし、花山椒)が出て、)焼物(小鯛)、重引(花鰹、竹の子)、 後から、平 (奈良漬け、 (蒟蒻、蒲鉾、かわたけ、か 糠漬け)、なし物(昆布)、 やっと酒が入ります。 この 「献立」に記 吸物 香の いわ

再現料理 b 神と共に確かな を意識したもの る食事は、 御師邸で出され 昆布などは神宮 録された鯛 0) 後の夕食は、 れる食材です。 0) で、特に神楽奉納 御神饌に使わ 重 祈りや願 のにするため 要な儀 御神饌 恋いを 人々

> を執り行いました。 午前に外宮、同午後に内宮で幣帛を納める神事 二十五日から二十六日夜まで滞在し、二十六日 衛士二人、供二十三人合わせて二十七人が八月 ときには、王使小野越後守、忌部使真継大和守 される例幣使の宿所を務めていました。この た。当時、宗大夫は、毎年九月の神嘗祭に派遣 のために由奉幣使が伊勢神宮に派遣されまし 新しい天皇 丸岡宗大夫」では、慶応四年 次に少し特別な客の 素木の膳を使用しました。 (明治天皇)が即位され、 慶応四年 (一八六八) 辰八月 (一八六八)八月、 御即 位 その奉告 由 奉 幣

廷からの大切な使者を迎えたにしては、 また、使者、 そして、夕食は、一の膳に膾、 と、落着として高坏の上に盛菓子が出ました。 ており、供には二の膳がつきませんでした。朝 鰤と蓮芋の煮物、 汁(葉付蕪)、飯。二の膳は刺身、かぶら漬 八月二十五日、奉幣使が宗大夫邸に到着する 衛士と供の者とで料理に差をつけ 鯛の焼き物となっています。 坪(蒟蒻、 他 葛)、 1の伊



御即位由奉幣使御献立表紙

容になっています 勢参りの「献立」と比べるとずいぶん質素な内

して、

使

だけが残っているので、 参りに来ていたのです。 ちですが、このような例は少なく、 な料金を支払ってくれる客をもてなした記録 神楽を奉納した檀家のものです。 人々は、懐具合と相談しながらそれぞれに伊 の人が豪華な食事をしていたように思われが 宗大夫邸に残る「献立 伊勢参りに来たすべて 」のほとんどは、 いわば、 おおかたの 太

さらに高めました。 地元に持ち帰り、講の仲間に報告披露したと思 旅の日程と食材を細かく記録に残しました。 しの宣伝効果が、伊勢参りに対する厚い想いを われます。こうした豪華な食事、手厚いもてな 伊勢参りに来た人々は、この「献立」の写しを 宗大夫は、大切な客が再度来る時に備えて、

り」と「願い」にありました。それゆえ、 物の実りを願う彼らに大きな安心をもたらし 座する町で食べる豊かな食は、 もその一環です。 出を行ったのです。 届いたという実感が持てるようさまざまな演 る御師も、 旅をした一番の目的は、 参りですが、人々がお金と時間をかけて危険な たことでしょう。 娯楽的な面が強調されがちな江戸期 彼らの「祈り」「願い」が確実に神に 伊勢参りの人々が、神宮が鎮 御神饌を基本にした食事 神に対する切実な「 日々の平穏と作 0) 迎え 伊

特定非営利活動法人

:御師丸岡宗大夫邸保存再生会議監事

神社

本

宮

修

システムZoomを併用し開催した。 会は一都七県神社庁にも参加を呼びかけ県内 から七十三名の参加を頂いた。 |委員会主管による教養研修会をWEB会議 $\bar{\mathbb{H}}$ 埼玉 原神社庁 研修 所主 本研修 同

す問題である。 なっている。これは神社の活動基盤を揺るが ながら、核家族化が進み、 考える」と題して企画した。 相俟って氏子の神社離れが大きな課題と 体、氏子によって支えられてきた。 今年度の教養研修会は 「神社の存在意義を 高齢化や過疎化と 神社は、 しかし 地域共



開講式

はないだろうかと考えた。 再 13 を把握することで、 時代の神道教化」を図ることができるので 一認識し、今期の教化委員会の掲げる「新 神社 の果たすべき役割

年においては少子化が進んでいる現状を確認 0) 国勢調査から日本の人口の推移を示され、 講義では、大正九年(一九二〇)の第 第一講の神社本庁教化広報部長牛尾淳先生 近 回

状を示された。また、全国の神職数の推移で 県の人口や神社数、神職数を比較しながら現 宮司一人あたりの負担が増加していると説明 いることを指摘された。こうした状況により 数が本務宮司数を上回っている状況となって いることを指摘され、ついに平成十七年に約 三一九名いた宮司以外の神職が年々増加して 宮司数が減少していることや、 万人で同数となり、以後、 次に、先生のご出身地である島根県と埼 昭和三十年には一二、五七〇名いた本務 宮司を除く神職 同年三、

れを受けて、 三十八年から五十年にかけて調査を行い、 以上のことを踏まえて、 昭和五十年から平成二十六年ま 神社本庁では昭 和

> 主に境内整備や記念事業、 **、物や組織に重きを置いた施策を講じた。** 振興対策に取り組んだ。この期間は、 崇敬会の結成など、

琴平神社(大 県では前期東秩父村坂本鎮座の八幡大神 過疎地域に目を向け、 持を進める施策を講じることとなった。 (大澤孝宮司)を、 その後、平成二十七年から二十八年にかけ 改めて現状の把握と分析を進めた結果、 今期は秩父市下影森鎮座の 祭祀の継承や神社の護

域の神社の実見て、過疎地 見て、 明された。 指定し、活動 墅至宮司)を 神社の映像を 野原鎮座槇尾 れた島根県浜 演の最後に、 していると説 テレビ放映さ 市弥栄町 講 田



牛尾淳先生

た。 ②社名、③祭神、 も明確化された「神社」について調査が行 り「神社復祀について」と題してご講義頂 ⑦社殿建坪、⑧境内反別、⑨旧 れ、これにより社格が定められた。 第二講は、櫻井治男皇学館大学名誉教授 明治七年の『特選神名帳』によれば①所在 明治初年の神仏分離を経て、 ④由緒、⑤勧請年月、 社領、 江戸期より 調査項目

① 帳』へ続くものであった。 該庁距離であり、 明治 \mathcal{O} 神 社 明

三十九年から始め、大正初めには完了した。 なかったと述べられた。 反対運動に見られる様に、 たすはずであった。しかし、 した。この政府主導の行政施策は、 ては大正十五年に県議会で議論が起こり、 れは全国規模で起こり、 後十年ほどの間に復祀の機運が高まった。 社復祀の議論がなされ始めた。 のような状況が落ち着いた大正後期には の機運もあった。 社は地域住民の精神的統合の中核機能を果 し、集約化することによって立派になった ないしは一大字一社を目指した。 止、合祀あるいは破却の後には、 !社の大規模な減少をもたらした。 のためにも神社の合祀・合併・整理を計 い神社の有様を求め、 一時の政府・行政は「国家の宗 埼玉県の合祀政策は明治 地域によっては反 また経費負担の 埼玉県も例外では 南方熊楠の合祀 三重県にお 祀 神社を減 村社・無 そして、 に 町 村 Š

ても離れているという例や大字内の十数カ所 大字に一つある氏神神社が自分の集落からと も多く、その対応のために、 [域検索早見表 」を作成・ 氏神様が知りたい めに、庁務の中で、 県の神社合祀」と題してご講演頂 第三講は、 『埼玉の神社』編纂のため県内二千社の悉 査から得られたデータを活用した「 髙橋寛司神社庁学芸員より「埼 」という問い合わせが最 「自分の住んでいる地域 使用し かつておこなっ ている中で、 た。 「氏子 は

> 状だと述べられた。 0 集落ごとに氏神神社がある例をあげ、 明治の末からおこなわれた神社合祀 0 れ 現

無格社においては五四四八社から九一九社と が一八九四社から一四六四社と二三%減少し、 ける明治末期からの神社数の推移を示され、 された神社の、 て挙げながら、 遵法合祀」の墨書の写真を象徴的な事例とし 気に八三%減少したと説明された。 治三十八年から大正五年の十一年間で村社 そこで、比企郡内で、 統計資料から見た埼玉県にお 神璽背面に大書された「 明 治治四 \pm 一年に合祀

明

された愛宕神社のために、 たま市岩槻区諏訪鎮座 をおこなった南方熊楠とこれを支援した柳田次に、明治四十二年から神社合祀反対運動 祀したことから始まり、 県内では県庁のある旧浦和市で明治三十九 市・旧秩父市と、県内でも特に合祀が徹底さ とを紹介され 移転の割合に差が見られたことを示され て本殿に合祀・境内社に合祀・境内社として おこなわれず、 へ合祀されたが、川越市や旧秩父市では余り 十二月十五日に調神社で無格社を境内社に合 れた坂戸市を例に挙げて、 た「表慈恩寺区愛宕神社 また、 「男との逸話と、大正二年に諏訪神社 旧浦和市・旧大宮市・川越市・ 無格社については、)の境内社として合祀 村社は基本的に本殿 遷 柳田が唯一 祀 実状を示された。 記 碑 市によっ があるこ 撰文し <u>さ</u> 熊谷 た。

次に、 応」として、 埼玉県内の神社合祀による氏子 『埼玉の神社 <u>_</u> 調査資料から \dot{O}

対

n 神社合祀によって 火の恐れがあるとして合祀を免れた事例 村 合祀されなかった事例・神社合祀と復祀によ を説得した事例・書類上は合祀されて た事例・合祀に際してご神前での 合祀が行われ いて話され 町長が辞任したという事例・合祀すると大 |社とするために合祀された事例・合祀によ 社号が合わなくなった事例・隣村の神社を なかった事 翻弄された氏子の対応につ 例 合祀の徹 祝詞で神様 いるが 底され

べられた。 氏子の精神的な部 様々な疫病対策としての神様が境内社として 信仰の神様が合祀によって失われたことは、 勧請されてきた。 一域の主な生業・専門の職人などの職能神や、 最後に、合祀された集落ごとの神社には、 生活圏内にある身近な民間 分に負の影響を与えたと述

その後、 閉 講式を行 13 無事に 研 修会を終了

まつり 者がお互いを支え合い、 化というものをどのように実践してい ならないと感じた。 を護持していくことが我々の実践すべ 教化施策を知り、 た。また、神社本庁がこれまで行なってきた が必要なのか、私自身考えるきっかけとな この研修会を通して、 「標であると感じた。 「神社 我々神職は言葉と背中で教化しなけ 」とは何かを氏子崇敬者に問 神社と地域社会、 協力し合っ 氏子崇敬者に 」とは何か、 氏子崇敬 われたと て、 、き教化 神 渞 n

教化委員会研修部班 長

教化 育成

田 土 支 彦

業を行いました。 ラス十八名)を対象とした青少年教化育成事 校 (宮澤忍校長)にて、 一月二十七日、 埼玉県小川町立八和 小学校三年生 田小学 _ (ー ク

成事業として話が進みました。 きたい。」という言葉を頂戴し、 たところ「そんなに素晴らしい事業を考えて ことは出来ないか、と考えました。 いるのであれば、是非当校で開催していただ 島浩副班長の義兄が宮澤校長ということもあ 『成を目指し、神職が小学校へ出向き授業を 事業部では、行政と神社が協働で郷土愛の 教育者の立場から意見を伺おうと相談し 祭・伝統 ・文化・神社を知ってもらう 青少年教化育 幸い、千

業を行うことになりました。 今回、 当日は、 だを頂戴し、二時間目は社会科、 四時間目は体験学習とし、 小学校より二・三・四時間目の授業時 八宮神社 (千島浩宮司)に集合し、 三時間目は 体育館で授

改服の後に小学校へ向かいました。 ぐに会場設営に移りました。 備品や雅楽の楽器類を体育館へと運び、 到着次第 直

一時間目の社会科の授業は、まず、 八和田

> りやすく説明してもらいました。 の神様、 ら「身近な神様」と題して、 生徒達と拝礼作法を終えた後に、小高班員か ある事などの説明があり、 ました。 地区の神様と神社」について話をしてもら 神社を兼務している千島宮司より、 員による参拝作法の説明と実践を行いました。 火や水の神様がいることなど、 子供達の学区 (地域)ごとに神社が 続いて、 自然の神様や家 小高茂班 分か 和 田

特別授業を行っていただきました。 招きして、「鎌倉街道の歴史と神社 また、小川町立図書館の新田文子館長をお 」と題して

資料をもとに、雅楽の歴史と楽器の紹介を行 とても驚いていました。 いました。管ごとの音色と迫力に生徒たちは 川和紙を使用した、班員作成の雅楽に関する を演奏、 心を引きつけるために、雅楽平調の 三時間目の音楽の授業は、まず生徒たちの 地元の製紙所から協賛いただいた小 「音取」

生徒を中心に真剣な眼差しで鑑賞していまし を奉奏しました。 そして、「越殿楽」の演奏後に、 間近で見る巫女舞に、 「浦安の舞_

緒になり舞の体験をし、 その場にいた、校長・教頭・担任の先生も 運びや音を合わせて舞う体験を致しました。 四時間目の体験学習授業では、 安の舞」を習い、 太鼓も生徒が叩き、 あっという間に時間 生徒全員で

が過ぎて行きました。

があり、 社では何をしているのですか。」などの る旨の話がありました。 特産品など誇れるものが地元にはたくさんあ らの質疑応答の時間を設けました。 員会副委員長に担当していただき、 体験学習を切り上げて、新渡戸常英教化委 副委員長からは回答と共に、 生徒達 「普段神 和

括があり、無事に終了致しました。 ただき、東角井真臣教化委員長より御礼と総 最後に、宮澤校長より総評の挨拶をしてい

中に、 す。 貴重な時間、 青少年教化育成事業は、 今回、 あと何校か行うことが出来れば幸 初の試みであった小学校へ出向 経験が出来ました。 とても勉 今期の任期 強になる

教化委員会事業部班 長



雅楽演奏

次に斎主御扉を開き畢りて側に

に候す

次に斎主一拝

次に斎主祝詞を奏す 次に祭員神饌を供す

寳登山神社権禰宜

岩田悠太郎

坂井

埼 玉 県 神 社 庁 祈 年 祭

催されました。 泰の祈りが捧げられました。祭典終了後は、午後三時より役員会が開 参列した役職員二十三名が合わせて拝礼し、本年の五穀の豊穣と国家安 康神社庁長、大野光政県総代会長が参列者を代表して玉串を奉りて拝礼 祭典は秩父支部の奉仕にて、 |年祭は二月二十一日午後| 曽根原正宏副支部長が斎主を務め、 時三十分より神殿にて斎行されました。 高麗文

祈年祭次第

時刻、 次に修祓 次に斎主以下祭員、 斎主以下祭員、参列者代表参進 参列者所定の座に著く 参列者代表所定の座に著く 是より先手水の儀あり 是より先手水の儀あり

次に参列者玉串を奉りて拝礼 次に斎主玉串を奉りて拝礼 埼玉県神社庁代表

神職列拝

祭員列拝

次に祭員神饌を撤す 埼玉県神社氏子総代会代表 総代列拝

次に斎主一拝 次に斎主御扉を閉じ畢りて本座に復す

奉仕員)

次に直会

副斎主 祭祭祭 主 員 三峰神社禰宜 秩父神社権禰宜 寳登山神社宮司 幡神社宮司

> 朝日 淺見

知史

曽根原正宏

に斎主以下祭員、参列者代表所定の座に著く『刻、斎主以下祭員、参列者代表参進 是より『刻、参列者所定の座に著く 是より先手水の神殿鎮座記念祭次第 -表参進 是より先手水の儀あ是より先手水の儀あり

時刻、参列者所定の座に著く 是時刻、参列者所定の座に著く といに済主以下祭員、参列者代表所次に斎主祖扉を開き畢りて側に候次に斎主祖扉を開き畢りて側に候次に斎主祖扉を開き畢りて拝礼次に斎主王串を奉りて拝礼次に斎主王中を奉りて拝礼次に斎主理神社庁代表で、埼玉県神社庁代表で、埼玉県神社市代表と、大に祭員神饌を供する。

御扉を閉じ畢りて本座に復す

次に直会 次に斎主

人員員員

伶祭祭祭副斎

八幡大神社禰宜 富士浅間神社禰宜 氷川神社権禰宜 水川神社権禰宜 大江遠池恩 澤森藤永田

篳鳳 篥笙

金高鑽麗 長谷

総代列拝 利拝 祭員列拝 川 洋浩 俊文 美成修樹康 真茂胤衛栄 弓代也治治

玉 県 神 社 庁 神 殿 鎮 座 記 念

埼

畄

茂庁長、

竹本佳

輝・宮澤岩雄

の多くが参加しました。生憎、私は野村純一なり、学生調査員として、先の調査メンバー 7 包括下約二千社の神社を悉皆調査することと として、 六十一年の本県神社庁設立四十周年記念事業 下 の年 國大助教授(当時)を中心とした新潟県古志 人招集された一人となったことに遡ります。 國大の民俗学系サークルの学生・院生が十数 導ご厚情を賜り、 年後、改めて声が掛かった昭和五十七年後 から調査員に加わりました。 いたために手が回らず、一度はお断りし、 :山古志村の村史民俗編調査執筆委員となっ その後、昭和五十六年には、来る昭和 本文化研究所の字野正人・茂木栄両氏と、 田島祇園祭」の祭礼調査で、國學院大學(以 は、昭和五十四年から行われた福島県「会 間でありますが、本職に至る契機となった した。県内神職の皆様には長年に亘りご指 本年三月三十一日をもって定年退 國大)の薗田稔助教授 社庁職員としては、平成九年から二十五 全県的な神社誌刊行が決定し、県内 心より感謝申し上げます。 (当時)を中心に を迎

としてより、 三代までの ました。このお二人の薫陶を受け、 県下神職に調査の必要性と意義が説かれてい 國大教授が「埼玉県神社調査要目」を制定し、 なうことについては、昭和二十七年に河野省 三庁長が、神社誌の編纂を神社庁の事業方針 本県で神社庁主体による神社誌編纂をおこ 教化委員長を務めたのが、 県内神職でもあった西角井正慶 初代から

> 社庁教化委員長でもあった廣瀬和俊権宮司をげて神社調査に投入され、同博物館館長で神 団」が結成されていました。 の若手神職と國大の学生により「神社調査調査団長に据え、博物館職員と秩父郡市支部 で、特に宮澤副庁長は宮司を務め の若手神職と國大の学生により「神 建てた秩父宮記念三峯山博物館の組織を挙 る三峰神社

当時は、各社の宮司や総代・土

地

の古老と

治・大正・昭和に亘る神社、祭り、地域の大祖父母から聞かされた江戸時代の様子や、明いった方々も明治生まれがまだご健在でした。 現職宮司にUSBメモリで本兼務神社のデー に各社ごとの関連資料を追加して、 全社の入力を終えることができました。これ手書き調査記録のデジタル化を始め、昨年、 た方々に神社調査資料室調査委員に就任頂き、 職を置いて頂きました。そこで、 補充を図るために、学芸員という肩書きで本 た資料が余りにも膨大で、各社において今後 団長であった薗田稔といった歴代庁長期を経 茂・竹本佳輝・高麗澄雄、そして二代目調査神社関係者のご理解とご協力を得て、横田 るという、二度とない機会を得ました。 きな変化に至るまでお話しをお聞きし記録す治・大正 ・ 昭和に亘る神社、祭り、地域の大 タをお渡しする準備を進めております。 の活用に資するよう、調査記録のデータ化や 完了しました。しかし、紙幅に載せ得なかっ て、平成十年に 以来、十七年という長期事業となり、 『埼玉の神社』の刊行事業が 調査を行っ 本年中に

微力ながらお手伝いしてゆく所存です。 元埼玉県神社庁学芸員

ことになりましたが、退職後も神職や氏子が

結果的に神社庁とのご縁は、四十年に及ぶ

地域の伝統や文化を次代に継いでいけるよう、

(入間西支部

而副: 庁長

された。 総代会長ほか副会長二名の御来賓を迎え斎行 参集殿おいて、入間西支部物故神職慰霊祭が 高麗文康庁長・室岡孝志入間西支部神社氏子 二月二十二日、 高麗神社 (高麗文康宮

名の支部内青年会神職が奉仕し、横田正司副を枝窪邦茂支部長が務め、典儀を含む祭員四に帰幽された御霊、六十七柱が祀られ、斎主この度の慰霊祭は戦後、神社本庁設立以降 列のもと執り行われた。 支部長をはじめ二十五名の支部遺族神職ら

ら八月の感染者のあったが、六月か で平成五年に行われてよりほぼ三十年ぶりの当支部での物故神職慰霊祭は、前入間支部 者の落着いた二月 等が行えず、 拡大により、 では九月の予定で 染症の流行により 支部長の任期中に思案されていたが、 令和四年事業計画 延期されていた。 斎行となった。当初この慰霊祭は淵泉芳明前 会議

新型感

斎行となった。

す。 禰 鎮座致します宮戸神社権 いたしました、 宜の髙橋陽一と申しま 第二十八代会長を拝命 当会は 本年で発会 朝霞市に

です。 げ 度も何度も立ちふさがった事と思います。 て道を開 七十周年という節目を迎えます。 います。 らの危機を乗り越え続けた先に今日の活動 成り立っているという事を噛みしめ、 りますが、七十年の間には同様の障壁が何 として、 現在我々が直面している社会情勢の一 不安定な平和や疫病による混乱が た先輩諸兄に敬意と感謝を申 これは奇跡 改め そ

は T W 、ます。 開戦の地となったハワイにて慰霊祭を行 た場所です。 ッツ島の戦いは八十年前、 、慰霊祭を北海道にて斎行する予定です。 本年は七十周年の記念事業がたくさんござ |砕」した戦地であり、 その代表として、 五年前 の嶋田土支彦会長期に 大きな流れを作 アッツ島並びに北 初めて日本軍が ŋ

> 北海道での慰霊は過去行われておらず、 いるロシアとの問題があります。 計らずとも戦時 べきだと感じております。 に出兵された方への慰霊祭は、 また北方と言えば、現在他国に侵攻して の流れを追う運びとなりまし まさに今行う 当会による 北方

ため、 担 祭並びに抜穂祭を行います。 社 業を重ねました深谷市に鎮座します玉津島神 す。 る予定です。 ぎ、 もう一つの柱として、 (宮本修宮司)御神田をお借り 稲作における日本文化、 会員、 靖國神社まで徒歩にて参拝 またその家族を対象に、 御神田事業を行 神道の礎を学ぶ その後、 ij Ĺ 実りを 御田植 奉納す 以 公前事 11

示し、 ば、 おります。 な会員達による多角的な視点で、 らされております。青年会活動では個性豊か を繋いでいく所存でございます。 鑽に励みながら、まだ見ぬ世代へ 実感しております。 る理念も、 神社界は常に保持と変化、 自身の御社の活性化も、 知識を高めながら諸問題に立ち向かっ 神社界全体に恩返しをし、 今の水準に到達していなかったと 私自身、ここに参加していなけれ 培った経験を後輩たちに 相反する波にさ 神職として生き 誇 また自己研 情報を共有 れるもの

、埼玉県神道青年会会長

神社庁新任職員挨拶

橋佑奈と申します。 日付を以て、 この度、 令和五年 事務実習 应 月

化学部を志し、現在に至っております。 お手伝いをしたことを機に國學院大學神道文 神社を身近に感じており、 ありませんが、父が地元のお祭でお囃子をし 囲まれながら育ちました。 続が治めたことで知られる町で豊かな自然に が、この場をお借りしてご挨拶申し上げます。 に向けられ、 ていることがきっかけで、 にご存知の方もいらっしゃるかもしれません 新潟県長岡市に生まれ、戦国武将の直江兼 高校時代に市内神社にて社務 お世話になっており、 昨年度二月から当庁に 幼少よりお祭りや 神職家の出身では 自ずと関心は神社 既

と神楽舞サークル「みすゞ会」に所属し、 動を通して改めて神社や神道の奥深さを実 たしました。 在学時には、 神輿渡御サークル「若木 睦

ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上 になれるよう日々邁進してまいりますので、 うかもしれませんが、 であるため、失礼やご迷惑をお掛けしてしま ることのほうが多く、また社会人として未熟 の皆様のことや埼玉の地域について無知であ て勉強を重ねております。 ご縁を頂きまして入庁し、 一日も早く皆様のお力 しかし、 日々庁務につ 県内神職

1 27 庁 本宗奉賛委員会常任委員会事業部会(嶋田班) 務 日 誌 抄 於 神社庁·WEB会議 於 神社庁 於 神社庁 於 神社庁

部 新 両神山両神神社宮司お 新 天神社宮司旧 秩久神社宮司旧 株久神神社宮司日 株久神神社宮司

															_		_						_	_	_	_		_	_								_								_				_
3		3				3		3		3	3	3	3			3	3		3		3		3		2		2					2			2	2			2		2	:	2	2		2	2	1	
26		22				20		17		16		14				9	8		5		3		1		28		27 5 3					27	7		21	20			15		14	1	3	11		8	1		
教化事業「神主さんと神社を学ぼう!」		23 一都七県神灶宁事務担当者会	神雕身分昇級者語句語句過去,身分昇級者物質会	申战身分昇及者忍官正云を弋ニ身分昇及神社庁協議員会・神政連県本部代議員会	神殿鎮座記念祭(斎主高麗庁長・大里児玉支部奉仕	正副庁長議長会	高麗庁長・武田参事出席	全国神社庁長会・『皇室』普及委員会	高麗庁長・武田参事出席	神社庁長懇話会・全国神社庁長懇談会	祭式講師打合せ会	過疎地域神社活性化推進委員会	本宗奉賛委員会常任委員会		高麗本部長・岡本幹事長・武田事務局長出席	一都七県神政連本部長・幹事長・事務局長会議	事業部会 (小林班)	東副庁長・武田参事参列	神宮大麻頒布終了祭	武田参事出席	社	教養研修会 七十三名受講	月次祭	神政連本部役員・委員合同会議	教化広報部会(髙橋班)	六名受講	3	武田参事講演	教学上の現代的諸問題に関する研究会	高麗庁長出席	一都七県神社庁中堅神職研修開講式	教化委員十三名出向青少年教化育成事業	研修部会(宮本班)		正副庁長会・祈年祭 (秩父支部奉仕)・神社庁役員会	教化広報部会(髙橋班)	宮司代務者任命辞令交付式	高麗庁長出席	埼玉県護国神社役員会	武田参事・鈴木録事出席	宗教法人研修会	高麗庁長出席	· 比万頁上反置要於重功奇压思是於義	代田参事也四名助勢 建国記念の日一奉祝パレード」	庁報編集会議	神道婦人会新年会 武田参事出席	月次祭	規程改正検討委員会	本宗奉賛委員会常任委員会
	於 群馬・ホテル小暮	护 清才國	Ŷ.	异及音兄号:\(\) 於 神社庁	主支部奉仕)		於 神社本庁		於 明治記念館		於 神社庁·WEB会議	於 神社庁	神社庁	;	務局長出席			於 内宮神楽殿		於明治神宮会館		F		D.		於 明治神宮会館		於 神社本庁		於 明治神宮会館		於 小川町・八和田小学校	於神社庁	於神社庁		於神社庁		於 護国神社		於 埼佛会館		於 浦和·全電通埼玉会館	方 存 万	部 勺	於神社庁	於東天紅	於神社庁	神社庁・WF	
																							4		3			2 1	任命	任免辞令		4 21		4 20	4 19			4 14	4 13		4 11	4 10)	4 6			4 . 3		3 30
¥	渋谷 唯享 新 久尹豆神壮権禰宜	召 裕一	和一臣	敏明本	知正本	宏聡本	俊行 兼	大輝本	一行新	孟宣 兼	孟宣 本	健真 新	薗田 建 本 秩父神社他三社宮司	稔兼	祝子 新	由郎兼	新;	沙耶加 新		学力	憂太 折		輝和新	享和新	洋光 兼	哲人 本	のり子兼	金子のり子 本 天神社他八社宮司代務者			五句 对人 经分割 电多音电话 医多种 名言	作祭・ 祭祀 煙毒 市 連洛会	庁長・	神社本庁評議員一都七県の会	規程改正検討委員会	教化委員会役員会	本宗奉賛委員会常任委員会	事業部会(小林班)	総代会監査会・役員会・評議員会	庁報編集会議	教化広報部会(髙橋班)	培玉 県宗教道盟西事会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	高橋(理)・高橋(佐)受講	いる (単) いる (コンを) ビジネスマナー講習会	武田参事出向	埼玉県宗教連盟監査会	月次祭	髙橋録事受講	社会保険事務講習会
	(奇玉東)		(さきたま)	(さきたま)	_		_		_	_	児	(秩	(秩		(佚	(秩)	(比 企)	(入間西)		3日土宮司 (入間東)	(比尼立)	(比足立)				- -		『代務者 (入間西)			7 7 7	於 啤土宁·WEB会養	武田参事出席		神社庁・	•	神社庁・WF	於 神社庁	於	L.	於	於 奇弗会谊	が 大宮・ソニックシティ		於 埼佛会館		於 神社庁	於 大宮・ソニックシティ	

第二条第二号 第三条第二号 第三条第二号 第三条第三号 第三条第三号 第三条第三号

文 正彦 臣

本 八枝神社他十三社宮司本 出雲伊波比神社他七社宮司

(入間東)

稔

秩父神社名誉宮司

秩 父

二級上

日枝神社宮司

秩父神社権禰宜 三輪神社宮司

金鑽神社宮司

氷川女體神社禰宜

寳登山神社禰宜

八幡大神社宮司 中氷川神社禰宜

(三月一日付)

身分昇級(敬称略)

高麗神社宮司

dy.	福田		於 明治記念館		
70	紫藤	3 31	出一	高麗庁長・小林・東両副庁長・武田参事出	
		退任		神社本庁評議員一都七県の会	4 20
			於 神社庁·WEB会議	規程改正検討委員会	4 19
	薗田	4 20	於 神社庁·WEB会議	教化委員会役員会	
•	名誉宫司称号授与	名誉宮	於 神社庁·WEB会議	本宗奉賛委員会常任委員会	4 17
			於 神社庁	事業部会(小林班)	4 14
			於 神社庁	総代会監査会・役員会・評議員会	4 13
Mr.	朝日	3 31	於 神社庁·WEB会議	庁報編集会議	
		転出	於 神社庁	教化広報部会(髙橋班)	4 11
			於 埼佛会館	武田参事出席	
				埼玉県宗教連盟理事会	4 10
pte:	池永	4 . 1	於 大宮・ソニックシティ	高橋(理)・高橋(佑)受講	
				ビジネスマナー講習会	4 6
	杦田	2 . 1	於 埼佛会館	武田参事出向	
		転任		埼玉県宗教連盟監査会	
			於 神社庁	月次祭	3
			於 大宮・ソニックシティ	髙橋録事受講	
Ha	松岡			社会保険事務講習会	3 30
			於 神社本庁	武田参事受講	
	薗田			過疎対策教化研修会	3 29
			於 神社本庁	武田参事出席	
ate	薄平	4 . 1	指定神社·推進拠点研究会	第二期過疎地域神社活性化推進施策指定神社·推進拠点研究会	3 28 5 29
		本務替	於 武蔵一宮氷川神社	五千人来場	

箭弓稲荷神社権禰宜 笠山神社禰宜

優

本

陸斗

本 氷川神社権禰宜

茨城県・大中神社へ転出 (北足立)

を	12 :	免	庁報	
を取消す	12			
9	星野		四三号	
	貴之		一二頁	
	本		一段任	
	煎		頁下段任免辞令	訂
	前川神社権禰宜		辞令	正
	(北足立			

進した。

神主さんと神社を学ぼう!」報告

髙橋陽

三月二十六日、武蔵一宮氷川神社(東角井晴臣宮司)にて「神主さんと神社を学ぼう!」を開催した。平成二十六年に企画されたこの事業は例年大た。平成二十六年に企画されたこの事業は例年大の、開催は見送られていた。ようやく規制が緩和し、の、開催は見送られていた。ようやく規制が緩和し、今年は無事に開催できる運びとなったが、あいにく今年は無事に開催できる運びとなったが、あいにく雨天に見舞われた。

開催内容

社務所二階大ホールでは、クラブツーリズム㈱とた。「神道入門講座」武田淳神社庁参事・「神社と日本防疫祭祀」加藤健司帝京大学講師・「神社と日本時話」平藤喜久子國學院大學教授、全ての講座に百名以上の参加者が集った。声優の中山さら氏に百名以上の参加者が集った。声優の中山さら氏におる「神話デジタル紙芝居」は大変聞きやすく好の共催で、事前に申し込みを受付け、講座を設け、講座を設け、

よる祓詞解説も追加され、神道教化として一歩前方々の姿を見る事が出来た。浄書体験では神職に行った。どちらも盛況で、楽しそうに参加される小ホールでは御朱印帳作り、祓詞の浄書体験を

てやおまつりマットの販売も行われた。設けられた。神棚の里による神棚展示と、お札立日本文化興隆財団による神社検定PRコーナーが日本文化興隆財団による神社検定PRコーナーが

具竹荘二階では國學院大學「青葉雅楽会」による雅楽演奏、同「みすざ会」による神楽舞、川越祭りばやし「中台囃子連中」による神楽舞、川越祭時談が行われた。これらは本来神楽殿で行われるはずの演目であったが、雨天の為に会場の変更を余儀なくされた。呉竹荘への来場者は伸び悩んだが、何れも来場者からの評判が良く、特に神話講が、何れも来場者からの評判が良く、特に神話講が、何れも来場者からの評判が良く、特に神話講が、何れも来場者からの評判が良く、特に神話講

西参集殿では、御朱印展・神話カレンダー原画展・氏神検索が行われた。御朱印展は、前回開催展・氏神検索では、雨天にもかかわらず、一四一件を記氏神検索では、雨天にもかかわらず、一四一件を記録した。今後はもう一工夫して、お参りや祈願に繋録した。今後はもう一工夫して、お参りや祈願に繋がる方法を考えたい。

氷川神社職員による境内案内を開催し、多く

の方が参加した。

第三鳥居前では総合案内を設け、助勢をいただいた神道青年会員を中心に、チラシ配りや呼びかけ、案内や誘導を行った。雨脚が強まると参道脇の水はけが悪く、大きな水溜まりができてしまった。東角井真臣教化委員長自ら排水作業を行い、た。東角井真臣教化委員長自ら排水作業を行い、た。東角井真臣教化委員長自ら排水作業を行いたで、本語のかかった氏子さんらも、「諸になって作業を手伝ってくれた。この光景はもう、「言葉にて作業を手伝ってくれた。この光景はもう、「言葉にて作業を手伝ってくれた。この光景はもう、「言葉にて作業を手伝ってくれた。この光景はもう、「言葉にて作業を手伝ってくれた。この光景はもう、「言葉にて作業を手伝ってくれた。この光景はもう、「言葉にない。」

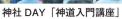
むすびに

回開催に臨みたいと思う。 回開催に臨みたいと思う。

た事を厚く感謝申し上げます。
「神主さんと神社を学ぼう!」が無事に開催でき神職が集まった。助勢いただいた皆様のおかげで神職が集まった。助勢いただいた皆様のおかげで

教化委員会教化広報部班長







神社 DAY「神社と防疫祭祀」



神社 DAY「神社と日本神話」



神話デジタル紙芝居



御朱印帳作り



祓詞浄書体験



神社検定 PR コーナー



神棚展示 神棚の里



國學院大學 青葉雅楽会



國學院大學 みすゞ会



川越祭りばやし(中台囃子連中) 神話講談 石山信昭宮司





氏神検索



埼玉の神社 御朱印展



境内案内



和傘の参道 埼玉中央青年会議所



参道 氷川マルシェ